

DHODHI（ジヒドロオロト酸デヒドロゲナーゼ阻害）使用ガイドライン(改定)

作成年月日：2024 年 5 月 30 日

改定年月日：2025 年 3 月 12 日

作成者：Japan FRAC DHODHI 作業部会

対象とする有効成分：

作用機構	作用点とコード	グループ名	化学グループ名	有効成分名	農薬名（例）	耐性リスク備考	FRACコード
A：核酸合成代謝	A5：デノボピリミジン生合成におけるジヒドロオロト酸デヒドロゲナーゼ	DHODHI 殺菌剤	フェニルプロパノール	イブフルフェノキン	ミギワ	中～高	52
			ジヒドロイソキノリン	キノフメリン	アイーナ		

作物別使用ガイドライン：

1. 野菜類、豆類

対象とする有効成分：高リスク病害に適用がある DHODHI 殺菌剤

(1) 使用回数

＊DHODHI 殺菌剤(以下、DHODHI 剤という)の 1 作期あたりの総使用回数（以下、総使用回数という）は 3 回までとする。

＊殺菌剤の総使用回数に対する DHODHI 剤の最多使用回数は、以下のガイドライン表のとおりとする。

殺菌剤の総使用回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	≥10
DHODHI 剤の最多使用回数	1	1	1	1	2	2	2	3	3	3

(2) 留意事項

＊各薬剤の農薬登録の範囲（使用回数、希釈倍数、散布水量等）で使用する。

＊予防的に使用する。

＊DHODHI 剤を連続散布しない。

＊作用機構の異なる殺菌剤と輪番で使用する。

＊次作においても、前作からの輪番使用を継続する。

2. 果樹類

対象とする有効成分：高リスク病害に適用がある DHODHI 剤

(1) 使用回数

＊DHODHI 剤の最多使用回数は、殺菌剤の総使用回数の 3 分の 1 までとする。

＊下記の病害を対象とする場合は、重点防除時期における使用回数を以下のガイドライン表のとおりとする。

作物・病害	重点防除時期における DHODHI 剤の最多使用回数
リンゴ黒星病	1
ナシ黒星病	2
カンキツ灰色かび病	1
ブドウ灰色かび病	1

(2) 留意事項

- * 各薬剤の農薬登録の範囲（使用回数、希釈倍数、散布水量等）で使用する。
- * 予防的に使用する。
- * DHODHI 剤を連続使用しない。
- * 作用機構の異なる殺菌剤と輪番で使用する。

3. 稲

対象とする有効成分：高リスク病害に適用がある DHODHI 剤（散布処理）

(1) 使用回数

- * 散布剤として使用する DHODHI 剤の最多使用回数は、1 回までとする。

(2) 留意事項

- * 各薬剤の農薬登録の範囲（使用回数、希釈倍数、散布水量等）で使用する。
- * 予防的に使用する。
- * DHODHI 剤を連続使用しない。
- * 作用機構の異なる殺菌剤と輪番で使用する。
- * 第一次伝染源となる汚染種子からの発生を防ぐため、健全種子を使用し、種子消毒を行う。
- * 苗からの伝染を防ぐため、苗いもちの発生に十分注意を払い、無病苗を使用する。
- * 圃場衛生を良好に保つために、第一次伝染源となる置苗、罹病わら、籾殻などの作物残渣をすみやかに処分する。

注意事項：

- * 本ガイドラインは、耐性菌の発生遅延化を目的としています。
- * 本ガイドラインは、使用する圃場において既に耐性菌が発生している病害には適用しません。

以 上